



北海道の海外との先住民交流の取り組みについて

北海道総合政策部国際局国際課

北海道の
先住民交流に係る取り組み

イランカラナテ。イランカラナテはアイヌ語で「こんにちは」という意味を持ちます。アイヌ民族は日本列島北部周辺、とりわけ北海道に多く住んでいる先住民です。

これまで北海道では、未来志向によるアイヌ政策を総合的に推進することとし、「理解の促進」「生活の向上」「文化の振興」「地域、産業及び観光の振興」「多様な文化との交流促進」の5つの施策を柱として、効果的なアイヌ施策に取り組んできました。

また、令和2年（2020年）7月には、アイヌ文化の復興・創造等のための拠点となるナショナルセンターである民族共生象徴空間「ウポポイ」が北海道白老町に誕生しました。ウポポイは、国内初のアイヌ文化の展示・調査研究に特化した「国立アイヌ民族博物館」と「国立民族共生公園」および「慰霊施設」とで構成され、アイヌ文化に触れて、感じて、考えることができます。

北海道では、海外との交流事業において、アイヌ民族の伝統文化を発信するなど、先住民交流の取り組みを積極的に行っていますので、ご紹介します。

ハワイ州知事・訪問団来道記念
レセプションでのアイヌ舞踊の披露

北海道とハワイ州が姉妹友好提携5周年の節目の年を迎えた令和4年（2022年）10月、ハワイ州からイゲ知事をはじめとするハワイ訪問団が北海道を訪れました。来道を記念したレセプションでは、ハワイでフラを学んだ方々による踊りをご覧いただいたほか、ハワイ先住民と同様、文字を持たないアイヌ民族の方々が伝承してきた歌や踊りをご覧いただくなど、お互いの素晴らしい文化を紹介しました。



「イゲ知事・ハワイ訪問団来道歓迎レセプション」で、アイヌ文化を紹介している様子

北海道訪問団ハワイ州訪問時の学校訪問

令和5年（2023年）1月には、北海道副知事をはじめとする訪問団の一員として、（公社）北海道アイヌ協会率いる舞踊チームが、ハワイ州を訪れました。訪問中、州知事主催の歓迎レセプションで、アイヌ文化発信パフォーマンス「ウポポヤン リムセヤン」を披露したほか、ハワイ語で教育を行う学校の一つである、クラ・カイアプニ・オ・アヌエヌエを訪問しました。

クラ・カイアプニ・オ・アヌエヌエでは、記念品の交換、生徒からクワイの首飾りのプレゼント、歓迎の歌（オリ）の歌唱、アヌエヌエ学校生徒の案内による校



ウポポイロゴマーク（左）とウポポイPRキャラクター「トゥレップン」（右）

内視察などを通じ、お互いの文化に対する理解を深めることができました。



クラ・カイアプニ・オ・アヌエヌエの食堂（ハレ・アイナ）で生徒のみなさんと（公社）北海道アイヌ協会舞踊団の集合写真

ニュージーランド先住民 マオリ部族の受入れ

令和5年（2023年）1月、ニュージーランドの先住民であるマオリ部族8名が、北海道を訪れました。

北海道は平成29年（2017年）5月に在日ニュージーランド大使館との間で「北海道と在日ニュージーランド大使館とのパートナーシップに関する覚書」を締結しており、今回はこの覚書に基づき、受入れに協力しました。



ウポイでの交流の様子

マオリ部族出身の参加者は14日間の行程で白老町、平取町、阿寒湖畔、札幌市などを巡り、各地でアイヌ民族関連施設を訪問し、アイヌ民族にルーツのある方々と交流をしました。マオリ部族の参加者は、アイヌ民族の歴史や文化に大きな関心を寄せており、各訪問先で積極的にアイヌ民族の歴史や文化を学びました。

行程終盤に訪問した札幌大学では、ウレシパクラブ^(※)

の学生と、お互いにアイヌ民族とマオリ部族の歴史や文化を紹介しあい、学生がアイヌ舞踊を披露するなど、有意義な交流をしました。



札幌大学ウレシパクラブでの交流の様子

ツアー終了後、マオリ部族の参加者から「すべての滞在先で、それぞれ異なる角度からアイヌ文化や歴史に触れることができ、これから先も長く続いていく両国の先住民交流の礎ができたことが本当に嬉しい」との感想をいただきました。また、道内の受入団体もマオリ部族との意見交換などにより、先住民族交流の重要性を改めて認識する機会となり、双方にとって意義深い交流となりました。



平取町立二風谷小学校で生徒と交流する様子

おわりに

北海道では、今後も海外との交流において、アイヌ民族が受け継いできた伝統文化を広く発信することを通じ、諸外国との相互理解や、交流促進に取り組んでまいります。

(※) 北海道の先住民族であるアイヌの歴史や文化、言語をアイヌと和人の学生と一緒に学ぶことを通じて、多文化共生コミュニティのモデル構築を目指す団体。活動の中心は学生だが、企業や一般市民も会員になることができる。